

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                              |    |        |    |
|----------------|------------------------------|----|--------|----|
| ○事業所名          | おひさまdekiru Study             |    |        |    |
| ○保護者評価実施期間     | 2024年 11月 1日 ～ 2024年 11月 30日 |    |        |    |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                       | 70 | (回答者数) | 56 |
| ○従業者評価実施期間     | 2024年 11月 1日 ～ 2024年 11月 30日 |    |        |    |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                       | 2  | (回答者数) | 2  |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2024年 12月 5日                 |    |        |    |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                 | さらに充実を図るための取組等                                     |
|---|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 1 | 部屋数と広さが整った事業所であり、聴覚過敏の児童への配慮がしやすい。         | 学習の取り組みに抵抗を持つ児童には個別対応を行い、原因を探り当てて落ち着きを取り戻し、学習の体制に入ることが出来ている。          | 状況に合わせた個室の使用で、安心感と学習の内容理解を深める時間を持つ。                |
| 2 | 会議やミーティング（カンファレンス）が多く持ち、問題解決をすばやく行っている。    | LINEの活用により、従業員の伝達事項や保護者様とのやり取りを円滑に行うことが出来ている。                         | バックオフィス作業の短縮のために、ICT利用をますます進め、指導に当たる時間や準備の時間を多くとる。 |
| 3 | 5年～10年勤続の従業員が多く在籍している。                     | ・経験値の高い指導員が多いが、毎月の研修でより正しい知識と向上心を身に付けている。<br>・発達障害に対する新しい手立てを日々学んでいる。 | 専門的な講習を所内で行っているが、座学だけではなくワークショップ形式も取り入れていく。        |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること               | 事業所として考えている課題の要因等                                                                             | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                      |
|---|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 個々の発達特性をよく検査、スクリーニングを行ったうえで支援をしているが限界もある。                | 早急に支援が必要な児童や、まだ年齢的に時間のある児童がいるが、通所日数に限りがある中ですべての課題に向き合うことが難しい。                                 | 定員の限度もあり、活動や課題のベースなどが保護者様の要望通りに行かないこともある。                                                 |
| 2 | 学習性トラウマを抱えて学習行為を拒否する児童も見受けられる。高学年になると不登校の自動も少数ながら見受けられる。 | ・机の前に座っていることが苦手な児童にも、先生と一緒に特性に合わせた課題学習に取り組むことで、勉強が楽しくなっていくように支援にしていく。<br>・社会生活を見据えた知識の取得を目指す。 | 上記の制限の中でも工夫して特性理解を深め、これまで以上に本人の強みを生かした学習支援に取り組んでいく。                                       |
| 3 | 医療の現場としっかり連携できれば良いのだがまだ厳しい。                              | よりの確に医院等を紹介し、フォーマルなアセスメントや診断に委ねていく必要がある。                                                      | ・医師やLDセンター等の教材や講習を受けた学習支援を行っているが、これらを継続してより進歩した内容にしていく。<br>・特性により読み書き学習に取り組みづらい児童の手立ての工夫。 |